

田を潤す「伝説」

— 県指定無形民俗文化財 鶴市神社の傘鉾巡行 —

うわ〜! きれい!

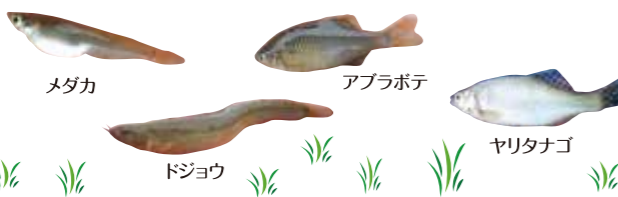


沖代の田んぼをうるおす水は、山国川の水を、三口にある大井手堰の取水口から取り込んでいる。大井手堰には悲しい言い伝えが残っているんだ。今から870年ほど前、平安時代の終わりごろ沖代の田んぼに水を引き込む堰は川の氾濫で何度も壊れていた。困った人々は工事の成功を祈って、お鶴と市太郎という母子を水中に沈め、(人柱という)その後水害は治まった。鶴市神社のお祭りでは8月最後の土曜日、二人の霊をなくさめるため、大井手堰から水をもらっている19の集落から出された19台の傘鉾がねり歩くんだ。

沖代地区には、一部に今なお土水路が残っているよ。ここにはメダカ、ヤリタナゴをはじめ、絶滅が心配されている生物が何種類も見つかった。(環境省レッドリストの生物)昔は、メダカやホタルがたくさんいた沖代の田んぼ。最近、急速に水路のコンクリート張りが進み、生き物たちは数を減らしている。



沖代の田んぼって、人間だけじゃなく、他の生き物にとっても大切な場所なのね。古代の人たちが残してくれた、この風景、ずーっと守っていきな!



ぼく達が生きていた時代もいつかは過去になる。今もこうして、この中津で「古代」を知ることができるのは、昔の人たちがふるさとを守り、残してくれたからなんだね。ぼく達は、後の時代の人たちに何を残せるだろうか。



こんにちは。ぼくは、ドク博士。
君はこの中津に「現代と古代が交わる場所」があるの知ってた?

あや? 「どこにあるの?」って声が聞こえて来るね。
じゃあ、さっそくでかけようか。

まあ…

どこにあるの〜?



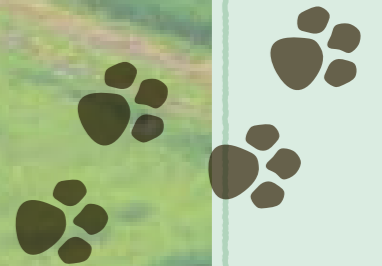
古代のドアを、開けてごらん!

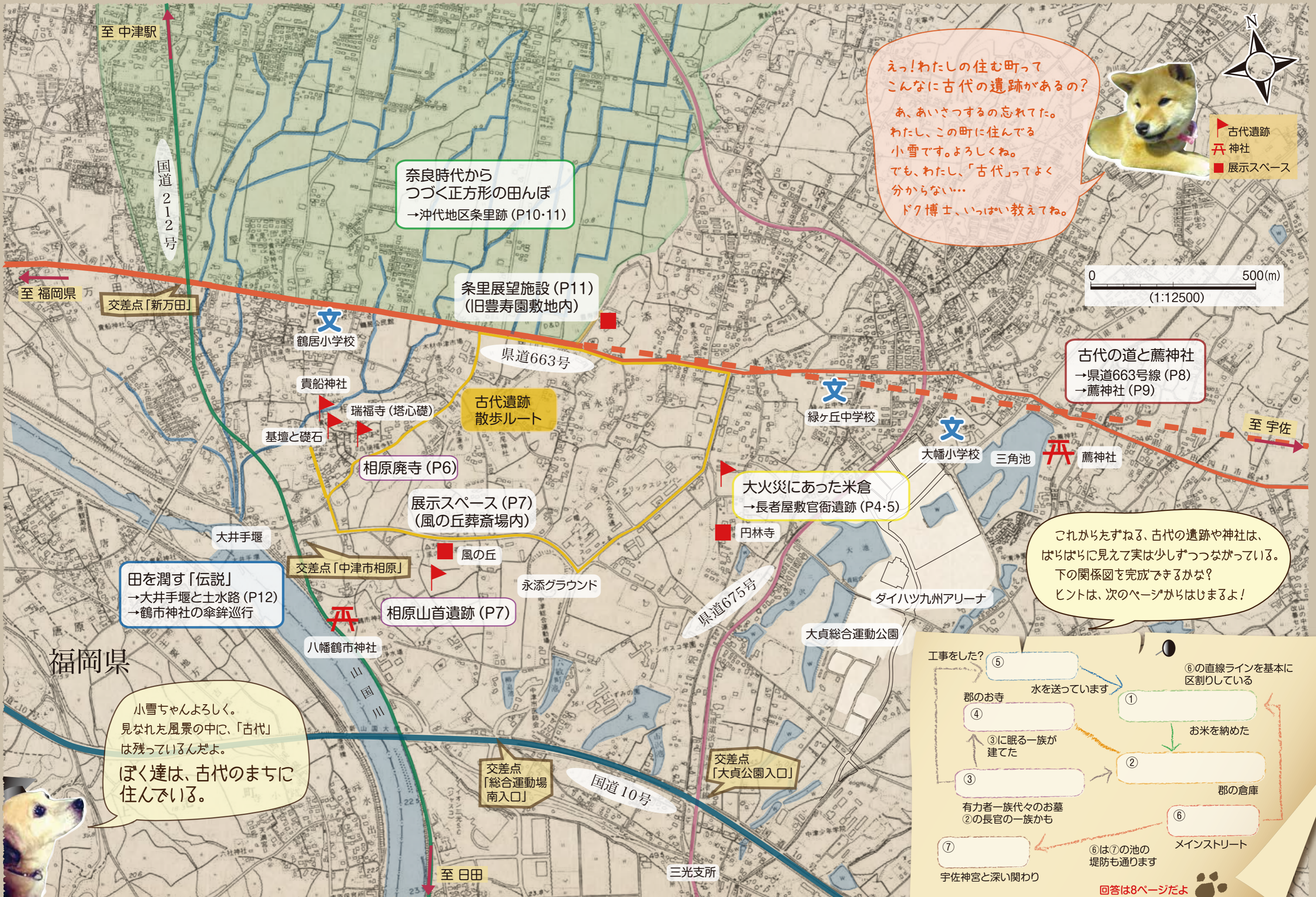


紹介する遺跡

- 長者屋敷官衙遺跡
- 相原廃寺
- 相原山首遺跡

- 古代豊前道と薦神社
- 沖代地区条里跡
- 大井手堰と土水路

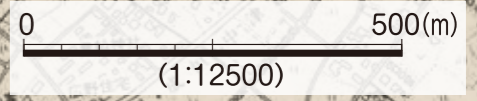




えっ!わたしの住む町ってこんなに古代の遺跡があるの?
 あ、あいさつするの忘れてた。わたし、この町に住んでる小雪です。よろしくね。でも、わたし、「古代」ってよく分からない……
 ドク博士、いっぱい教えてね。



- ▲ 古代遺跡
- ⚡ 神社
- 展示スペース

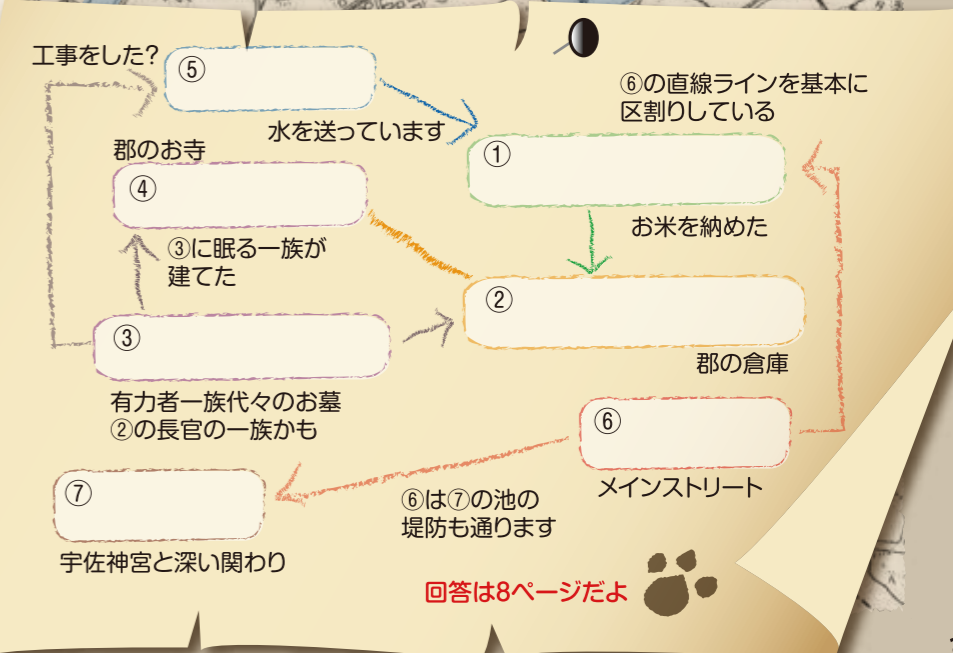


古代の道と薦神社
 → 県道663号線 (P8)
 → 薦神社 (P9)

これからたずねる、古代の遺跡や神社は、ばらばらに見えて実は少しずつつながっている。下の関係図を完成できるかな? ヒントは、次のページからはじまるよ!

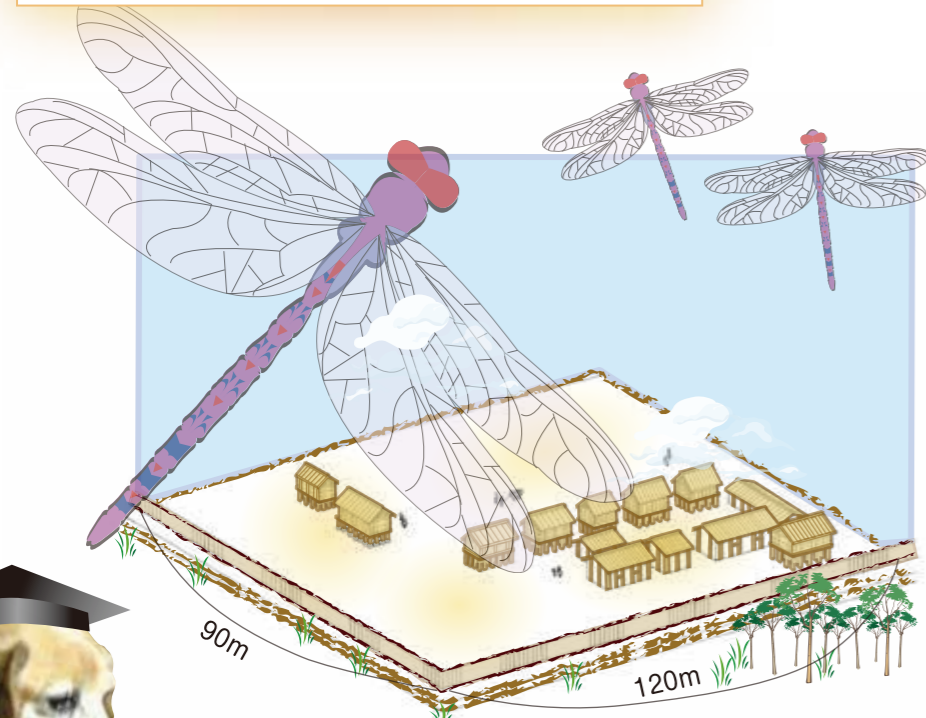
田を潤す「伝説」
 → 大井手堰と土水路 (P12)
 → 鶴市神社の傘鉾巡行

小雪ちゃんよろしく。見なれた風景の中に、「古代」は残っているんだよ。ぼく達は、古代のまちに住んでいる。



大火事にあった米倉

— 国指定史跡 長者屋敷官衙遺跡 —



今君が住んでいる中津市、「大分県中津市」になる前はなんて呼ばれていたか知ってる？

答えは、「豊前国下毛郡」。その下毛郡の役所関係の遺跡が、長者屋敷官衙遺跡だ。「官衙」という言葉は、「役所」という意味だよ。豊前国の役所なら「豊前国衙」、下毛郡の役所なら「下毛郡衙」と呼んだりもする。

長者屋敷官衙遺跡は下毛郡衙の倉庫跡(正倉)だと考えられている遺跡で、今の市役所にあたる役割をしていたんだ。でもなぜ、市役所に倉庫があったんだろう？

現代はお金で納める税を、昔はお米やその他の作物、品物で納めていたんだ。だから、役所にはこれらを保管しておく倉庫が必要だった。

このページの写真は全て遺跡を発掘調査した時の写真だ。④の、人が写ってる写真を見て！倉庫の柱穴の跡だ。真ん中の土が黒くなっているところが柱の跡だよ。人がすっぽり入っちゃう。大きいね～。①・②の写真は礎石といって柱の下に置いた石の写真。これも立派な石だな～。そして、発掘調査の結果をもとに描いた復元図が上の絵だよ。下毛郡内から集められた貴重な税を保管するために立派で丈夫な倉庫群が建てられていたんだね。きっと、沖代の田んぼで収穫されたお米も、ここに納められていたんだろう。



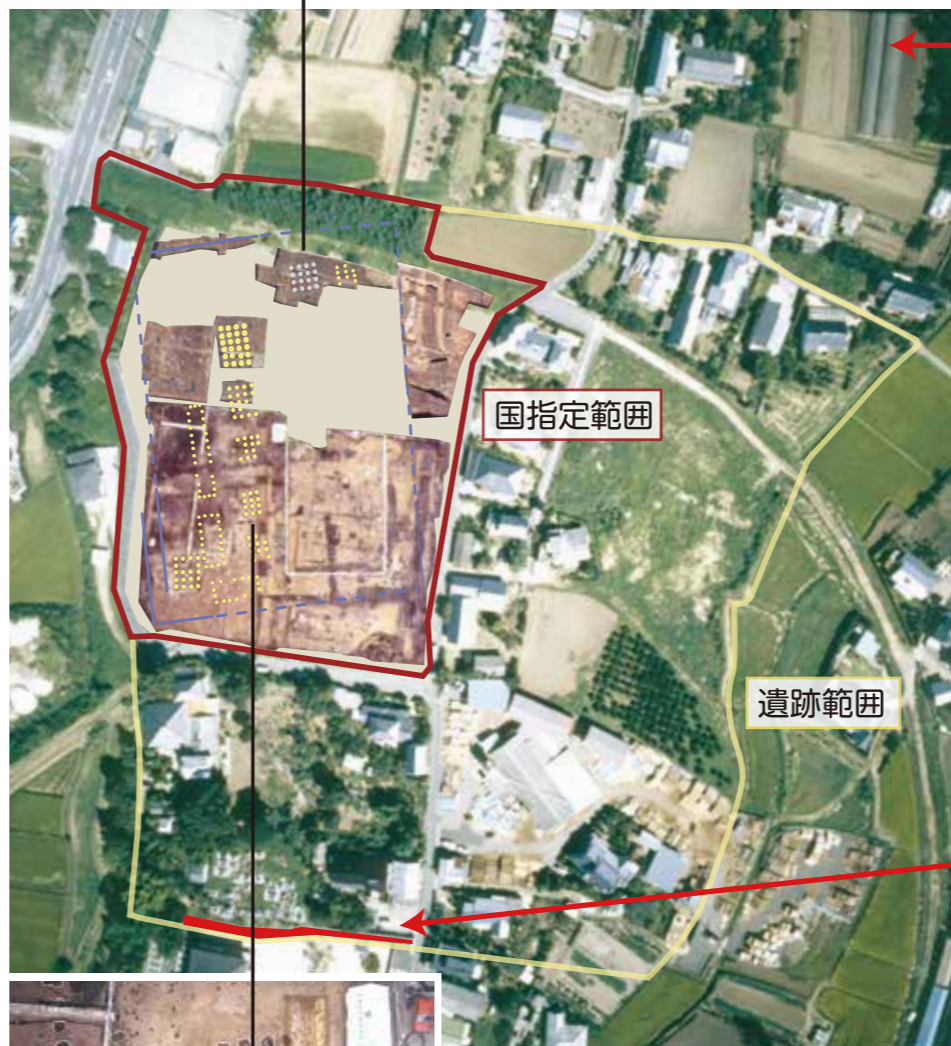
① 礎石建物跡 (そせきたてものあと)



② 礎石と礎石建物の柱 (右復元図)



柱を置いたあとがくっきり！
②の写真をよく見て！石の表面に、柱が建っていたあとが丸く残ってる！



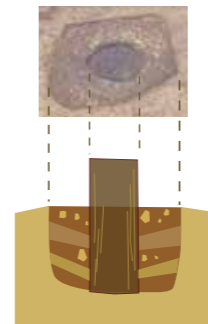
空から見た長者屋敷官衙遺跡台地の上にあるよ。



③ 掘立柱建物跡 (ほったてばしらたてものあと)



④ 掘立柱建物の柱穴と柱 (右復元図)



土をたたいて、かためながら柱を埋めるので、土の層ができる

火事があったことがどうして分かったの？



下の写真は発掘調査で見つかった、焼けて炭化したお米(炭化米)の写真だ。炭化米は遺跡の広い範囲で大量に見つかった。さらに、柱穴からは炭も出てきていて、三度ほど大火事があったことが分かったんだ。

実は、遺跡周辺の集落では昔から焼けたお米が見つかることが知られていた。地元の人たちの間では「昔、ここには長者さん(お金持ち)の倉が建っていて、ある時そこが火事があった。だから焼けた米が出土するんだ。」という伝説が伝わっている。「長者屋敷」という地名もそれに由来するんだ。



⑤ 炭化米

発掘調査では、長者屋敷官衙遺跡の倉庫群は奈良時代の中ごろ(約1250年前)から平安時代の中ごろ(約1100年前)まで続き、その間、建物は度重なる火事にあっていたことが分かった。そして最後も、火事によって消失したと考えられている。

この写真は、長者屋敷官衙遺跡の航空写真だよ。倉庫群の範囲(赤いライン)は、歴史的に重要な遺跡として「国指定史跡」になっている。でも、周辺には倉や他の建物があった可能性も高く、遺跡の範囲は黄色いラインまで広がっていると考えられるんだ。実際に倉庫群から南に約100mはなれた円林寺の発掘では、焼けたお米が丸く埋まった溝が見つかった。この溝は遺跡の「南側を区切る溝」だと考えられている。

これからも発掘調査は続けられるから、また新たな大発見があるかも知れないね！楽しみだな♪

数年後には史跡公園になるから、遊びに来てね！

豊前国の役所は、みやこ町でみつかったよ。おとなりの上毛町でも、郡役所(大ノ瀬官衙遺跡)がみつかった。

国の役所の長官「国司」は、都から貴族が来ることになっていた。一方、郡の役所の長官「郡司」は、地元の有力者一族が代々つとめたんだ。



古代人の祈り

—相原廃寺と相原山首遺跡—
(どちらも県指定史跡)



①基壇と礎石(きだんとそせき)

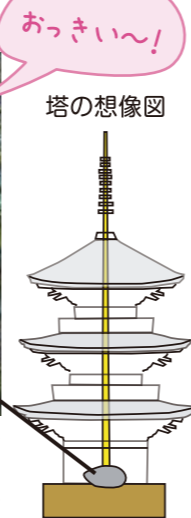


②神社の石垣に大きな石があるの見えるかな？再利用された礎石だよ。神社の敷地内には全部で10個あるから、さがしてみて！

基壇から貴船神社を見る



③瑞福寺境内(すいふくじけいだい)にある「塔心礎(とうしんそ)」。中央のくぼみに柱を据えた。このくぼみにたまった水を「いぼ」につけると治るという言い伝えがある。



塔の想像図



県指定史跡 相原廃寺 付 塔心礎

ここ相原には、九州で最も古い時代のお寺があった。今から約1350年前だ。大化の改新や壬申の乱といった事件が起こり、新しい時代へと世の中が移り変わってゆく不安定な時代、人々はどんなことをここで祈ったのだろうか。

時代は過ぎ、お寺の建物の基礎部分と屋根を葺いていた瓦がこの地に残された。基礎は「基壇」と呼ばれる、土を何層にも重ねてたたき硬くした台(写真④)で、その上に礎石を置き、礎石の上に柱を建てる。このように基礎部分を丈夫にするのは、塔のような大きな建物や瓦屋根の重みに耐えるためだ。

寺が建っていた場所(民家の庭：写真①)には基壇の高まりと礎石が2つ残っている。周辺では、この頃の瓦が落ちているけど、拾っちゃダメだよ。瓦を葺いた建物は当時の最先端技術で建てられたんだ。

相原廃寺の礎石の多くは近所の貴船神社に運ばれて、石垣や神社の礎石として利用されている(写真②)。さらに、塔を支える中心の柱を建てた「塔心礎」が、近くの瑞福寺境内に置かれている(写真③)。この塔心礎、直径2.1m、厚さ1.1mの巨石で、明治10年に地元の人たちによって相原廃寺から瑞福寺まで運ばれた。この石の上に建っていた塔は何重の塔だったのかな？

相原廃寺は最初、当時の中津で力を持っていた一族のための寺「氏寺」として建てられた。その後、一族が下毛郡の役所の長官(郡司)をつとめるようになってからは、郡に付属するお寺「郡寺」になったと考えられているんだよ。

④基壇の断面
土の層が見える



⑤相原廃寺と相原山首遺跡
⑥「風の丘」内は、相原山首遺跡の古墳公園になっている。

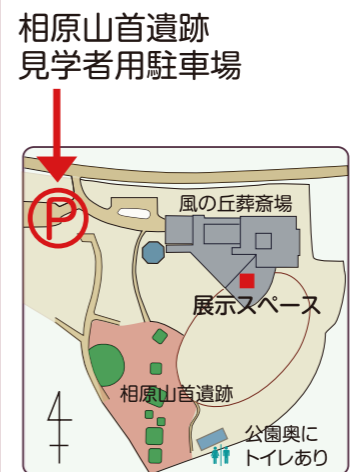
県指定史跡 相原山首遺跡

人が死んでその名前は忘れられても、生活していた家や葬られたお墓、お米を作った田んぼ、使っていた食器などがみつかることがある。それが「遺跡」だ。「遺跡」という足跡を残して人々は死に、一部の力を持った人々は、後の時代の人々に忘れられないようなお墓を作った。相原山首遺跡はそんな人々が眠る人生の終わりの舞台だ。相原廃寺を建てたり、下毛の「郡司」をつとめた有力者たちの代々のお墓じゃないかと考えられているんだ。

ここは約1550年前の古墳時代から現代まで続く墓地で、古いお墓は、中津の人々が火葬される「風の丘葬斎場」の敷地内に復元されている。この遺跡の発掘調査は「土葬」(棺や遺体を土に埋めて葬る)から「火葬」(遺体を焼いて葬る)への移り変わりを知ることができる重要な発見となった。今ではもう名前も分からないけど「中津」を作った古代の人々が今も静かに眠っている。



⑦西暦750年ごろの火葬墓



風の丘葬斎場内に展示スペースができるよ！
風の丘葬斎場内の待合室に、相原山首遺跡出土品を中心とした展示スペースを設置しています。ぜひご来場ください。なお、ご利用時間は、
平日・休日とも午前8時30分～正午まで
待合室には葬斎場ご利用のお客様がいっぱいます。お静かにご利用ください。ご来場の際には受付に声をかけ下さい。団体でお越しの方は、事前に中津市歴史博物館にご連絡ください。



今日も古代の道を行く

—古代豊前道(県道万田四日市線・663号線)—

鶴居小学校や緑ヶ丘中学校の前の道を、君は通ったことあるかい？

実はこの道、「官道」として古代のメインストリートなんだ。西は福岡県のみやこ町にあった豊前国の役所(豊前国府)に続き、東は薦神社を通過して宇佐神宮に続いている(中央の図・豊前道)。写真①は中津市永添で撮った官道の写真だ。直線的にのびているのが分かるかな？古代の官道はできる限り直線的につくるのが基本だった。丘は切り開き、低い谷には堤防をつくって真っ直ぐなラインを目指した。

今でも道をつくるのは、新しい町づくりの最初の一步だ。今から約1300年前、日本の国を整える制度(きまり)ができ、全国で官道がつくられた。そして、その道沿いに国や郡の役所がつくられたんだよ。もちろん、当時の土木工事は全部手作業。大変だっただろうな。

官道には約16kmごとに「駅」が設置された。「道の駅」って今もあるけど、おいしいものやお土産がたくさんあって楽しいところだな。でも、残念ながら古代官道の「駅」はちょっとちがう。古代の記録によると、駅では馬を飼うことがきめられていて、豊前道の各駅では5頭の馬が配置されていた。

都と地方をつなぐ使者が馬に乗って駅から駅へ大事な知らせなどを運んでいた。インターネットや電話のない時代、緊急の時に早く情報を伝えるための手段だったんだよ。



①まっすぐにつくられた古代の道を車が通る



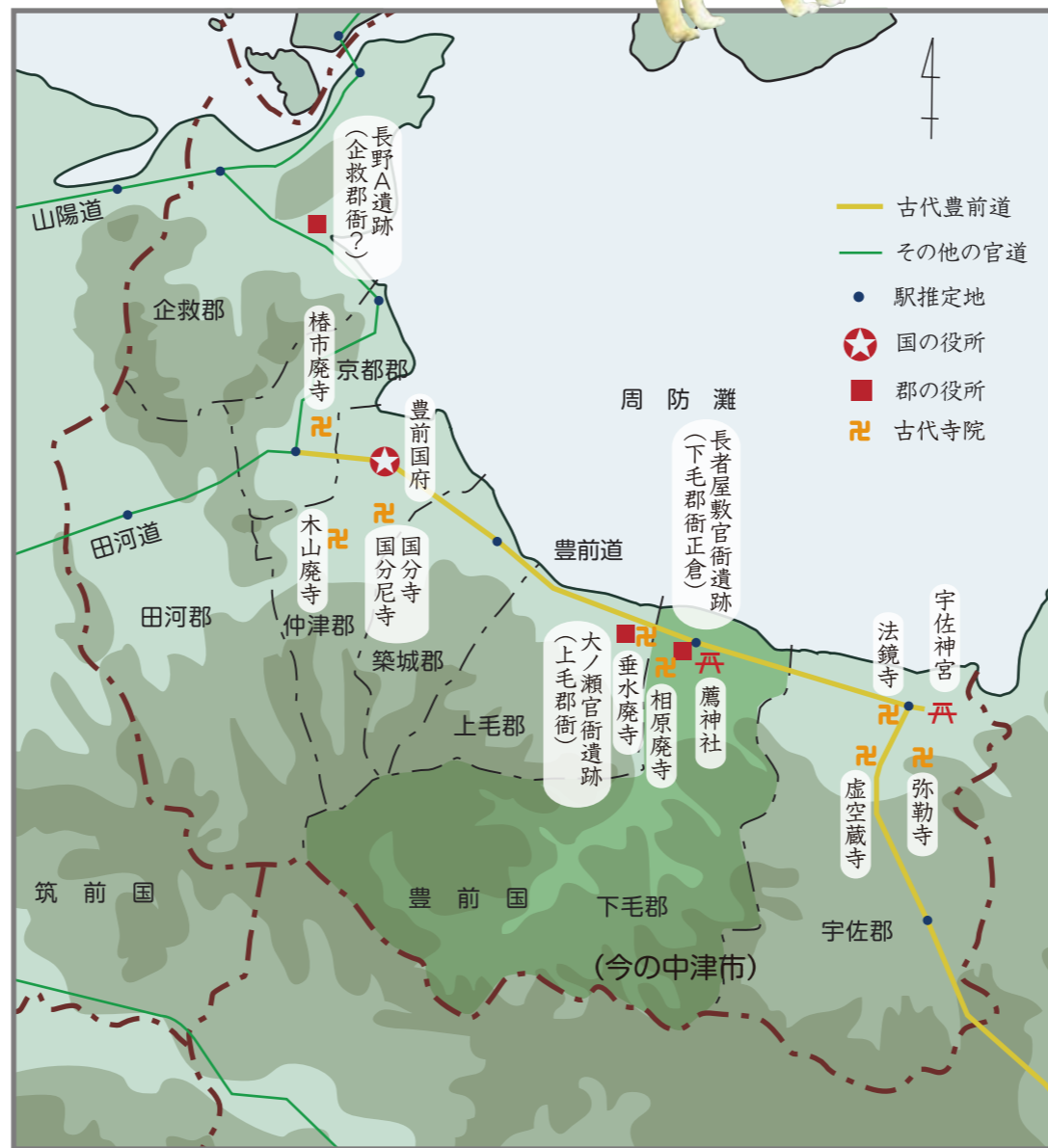
②薦神社のご神体—三角池



③三角池の堤防(豊前道) 現在では参道になっている



あ、古代の香り...
いやされる〜



薦神社まで歩くぞー!

薦神社と池の謎

—県指定史跡 三角池と薦神社—

古代豊前道を歩いてみよう。長者屋敷官衙遺跡から東に15分ほど歩くと薦神社の鳥居が見えてくる。

鳥居をくぐって中に入ると、神社の建物の裏に大きな池があるの、君は知ってた?この大きな池自体が神様なんだ。池の名前は「三角池(みすみ池)」。「御澄池」とも書き、三つの角を持つ池だ。3ページの地図で確認しよう。名前のおりの形をしているね。三角池は三つの小さな谷を沈めたため池なんだよ。谷間を流れる小川を堤防でせき止めて水をためる仕組みだ。そして僕らが歩いてきた豊前道は、この堤防の上を通過して宇佐神宮へと続いている(現在は参道)。

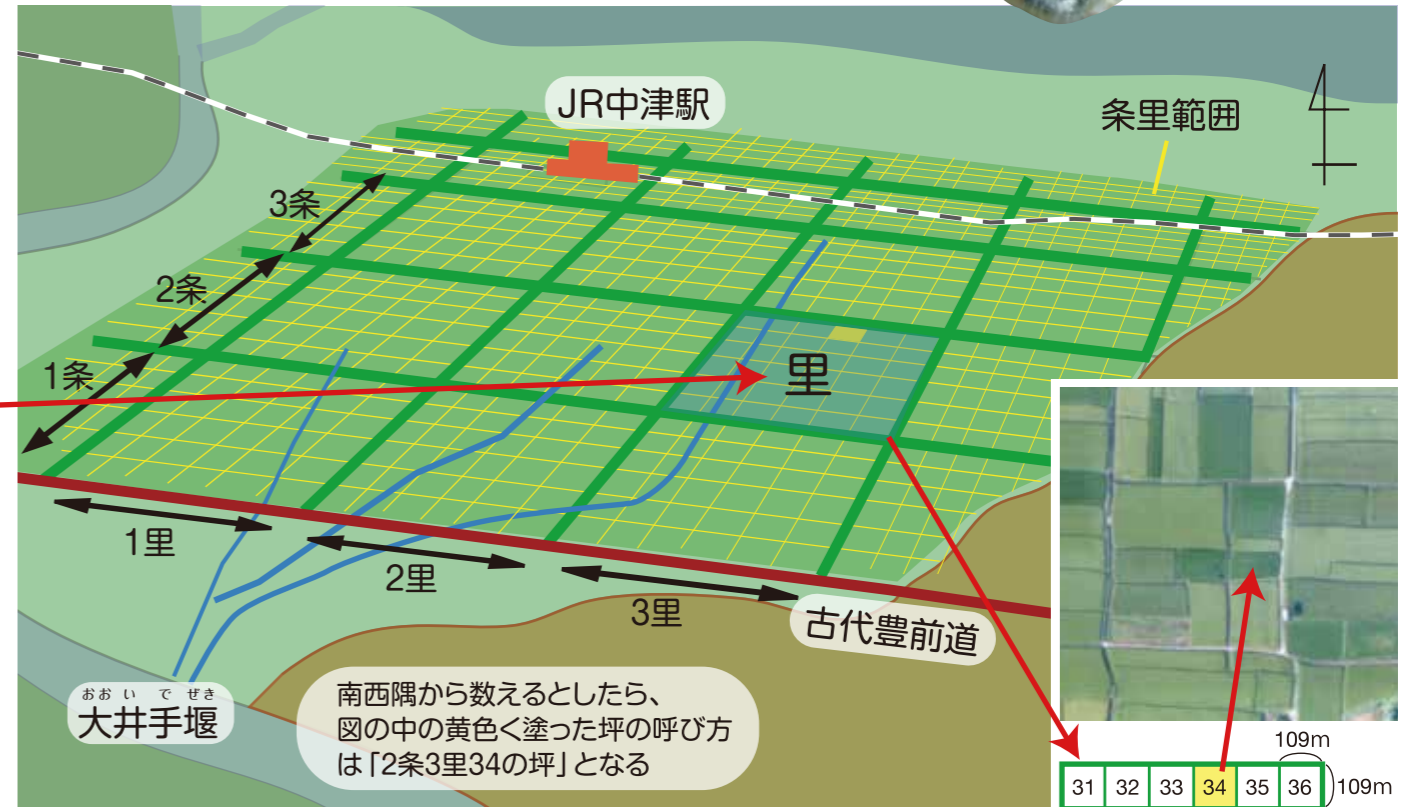
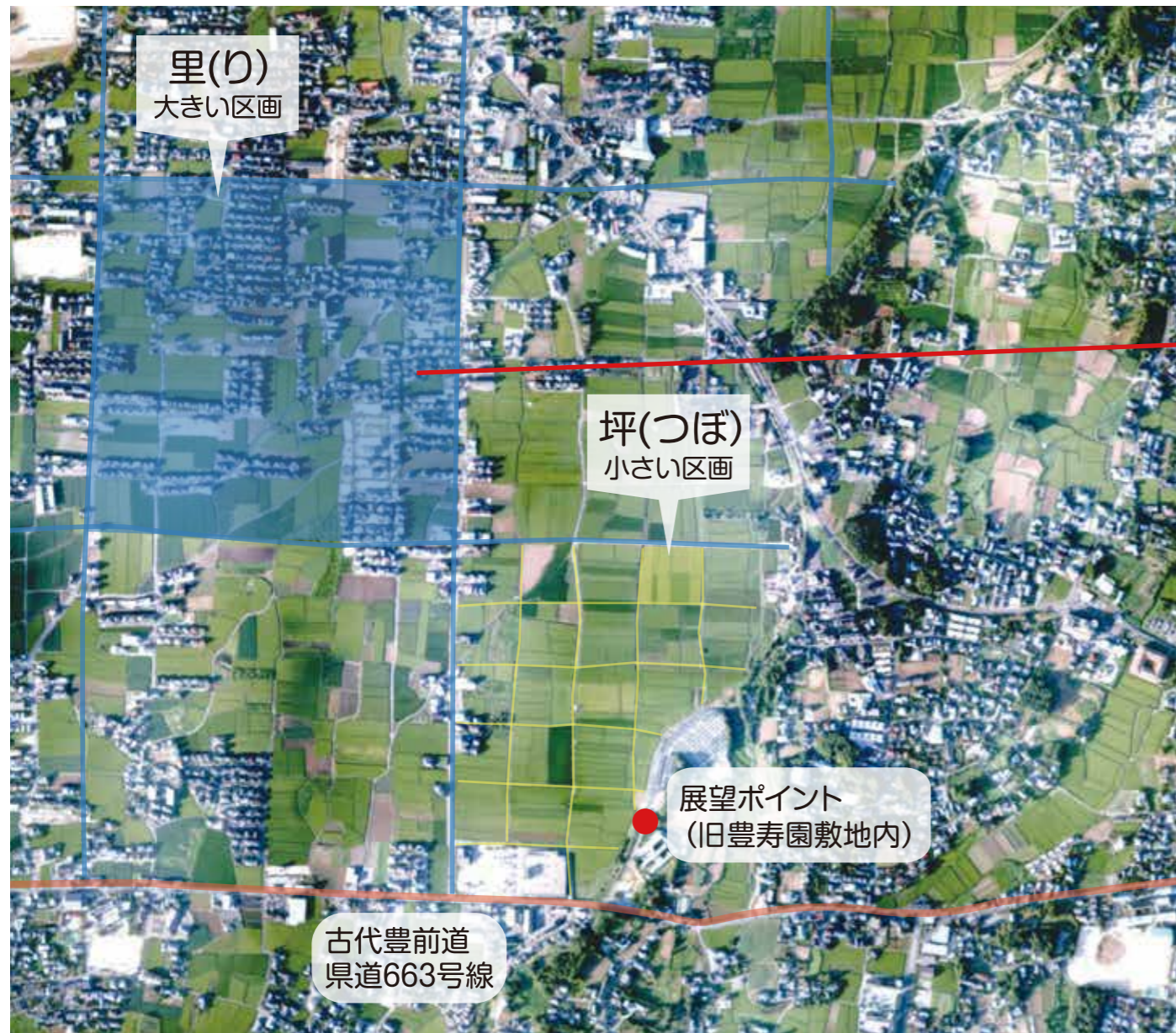
ではいつ、誰が、こんな大きな堤防をつくったのか?発掘調査の結果、堤防の造り方に朝鮮半島系の技術が使われていることが分かった。このことから、堤防を造るのに朝鮮半島から渡って来た人々か、その子孫たち(渡来人くわらいじん)という)が深く関係していると考えられている。

宇佐神宮との関係は?

「三角池」に生える「薦」という植物を編んで枕を作る。この枕が宇佐神宮のご神体となるんだ。宇佐神宮は「八幡神」を祭っている。この神様は渡来人が祭っていた神様だった、という説があり、もともとは堤防(ため池)をつくった人たちの神様だったのかもしれない。薦神社が「宇佐の祖宮(おやみや)」といわれるのも、こんなつながりがあるからなんだろう。

あれ? 田んぼがみーんな四角だよ? とってもきれい。でもなぜ沖代の田んぼは正方形なの?

おき だい ち くじょうり あと
—沖代地区条里跡—



里の中の坪には1~36まで番号がつけられていた

現在だと、住所は「中津市沖代町〇番地」という表し方をしますが、昔は田んぼの縦方向(条)と横方向(里)に数字をふり、坪には1~36まで番号がふられていた。だから、「〇条〇里〇ノ坪」という表し方をしたんだ。(上図、右図参照)

沖代のような田んぼを「条里水田」というんだ。沖代の条里水田は今から約1300年ぐらい前の奈良時代からつくられた。大きな機械のない時代に、どうやってこんなに広く整った田んぼをつくったんだろうね。

条里のラインは南を走っている道、前ページで紹介した古代官道「豊前道」を基準にしてつくられたと考えられている。条里の横のラインは豊前道と平行しているね。

もしかしたら、君のおじいさんのおじいさんのそのまたおじいさんの…奈良時代のご先祖も、ここでお米を作っていたかもしれない。そして今でも人々はここでお米を作り続けているんだ。

そんな場所って日本でもとても珍しいんだ! 大分県では、沖代条里水田だけなんだよ!

これからもずっと、この緑の風景を見られるといいな!

上の写真は沖代平野を空から見た写真だよ。田んぼがアゼ道によってほぼ正方形に区切られているのが分かるね。なぜ正方形をしているの? みんなはどう考える?



正方形にすることによって田んぼの面積がすぐ分かるようになるし、取れるお米の量も簡単な計算で分かる。基本となる田んぼは1辺約109mの正方形(上写真の黄色で塗った範囲)。

これが1坪(約109m×109m=11881㎡)って言って大きなアゼに区切られている単位だ。そして、1辺が6坪の正方形(上写真の青で塗った範囲)は「1里」という単位になるんだ。1里は6坪×6坪=36坪。

今では、「坪」「里」って単位は使わなくなったけど、沖代の田んぼには地名として「一ノ坪」や「九ノ坪」って呼び方が残っている。 ※「坪」は現代の面積を表す「坪」(3.3㎡)ではありません。

沖代の田んぼを見に行こう!



透明の看板越しに田んぼを見ると1坪の大きさが分かるよ。

条里が見下ろせる旧豊寿園敷地内に、展望施設があります。説明板によって、くわしく解説しています。

利用時間 9:00~17:00まで
駐車場2台(トイレなし)